

# 最多の木材使用量

## 競技しやすい選手重視の施設に

### 有明体操競技場

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は22日、完成間近の有明体操競技場の状況を公開した。

有明体操競技場は2020大会で新築される施設で最も木材を使っており、北海道、長野のカラ松を梁に、外装や観客席に杉などを使用。全体で約2300立方メートルの国産材を使用した。

高橋秀通日建設設計部門ダイレクターアーキテクトは、「かつての貯木場を埋め立てた場所に建設する。木

の特徴を生かしておおらかな空間を設計した。アーチ構造にして木の圧縮力を生かし、アーチが開いてしまわないようにケーブルで引っ張る構造にした」と説明。最大88・8メートルの大スパンを飛ばす木造屋根を地上で組み立てリフトアップする工程を5回繰り返して屋根をかけた。

外装も静岡、宮崎、

秋田県産の杉80ミリの角を、技場の観客席を出たコ5本組み合わせたユニットにして施工し、競すること施工費を削減した。観客席の傾斜に合せて外側に大きく外側に大きくくせり出す構造。床から3メートルまでは不燃処理を行い、それ以上の高さの部分は無処理。施工担当者は「外部空間でも雨が吹



工事は8割方完成している

き込むことはなく、10年はもつ」と語る。観客席は三重県産の杉集成材を使用し、実大燃焼試験を行い大臣認定を取得して施工している。また、外周部やアップローチには木チップを使用した木舗装を使用。クッション性と吸水性に富んだもので、リサイクルも可能だ。基本設計監修・監理は日建設計、実施設計・施工は清水建設、木材調達などは銘建工業が担当した。